

## 離島医療における看護師確保対策の取り組み

松浦幸子、三角琴江、家中ふみ代、天草 巧、白石裕子、白石吉彦

[目的] 人口 6095 人、高齢化率 39.8%の離島の中核医療機関として入院設備 44 床を有し、その役割を担っている。過疎化の影響もあり、看護師不足により経営の危機的状況を直面する中、H20 年より看護師確保活動に取り組んでいる。その取り組みと効果を報告する。

[方法] ホームページや看護師ブログで情報発信を行った。看護、医学生や現役看護師の地域医療、看護体験をオールシーズン受け入れた。また臨床経験 1 年以上で夜勤経験のある看護師を対象に 1 年コースの離島研修を企画した。

[結果] 活動を実施する以前の 6 年間、看護師の採用はなく H21 年 3 月には看護師の平均年齢が 51 歳になっていた。活動をはじめて、H21 年度 1 名、H22 年度 5 名、H23 年度 3 名、H24 年度 1 名、H25 年度 7 名を採用している。H 2 1 年度からの在留率は 77%であり、現在は看護師が充足している。

[結論] 少しでも自分たちの看護を知ってもらおうと始めたホームページや看護師ブログでの情報発信は、職場の雰囲気、仕事のやりがい、島の生活の楽しみ方を伝えることができた。オールシーズンの看護体験の受け入れは、体験者が実際の離島医療を肌で感じ、現場を支えているメンバーと対話することで離島医療や生活に対する不安を軽減させた。また体験者の声から、受け入れ側である自分たちの職場の特色や魅力を再発見することとなり、離島研修の企画につながった。